

平成 25 年第 2 回定例会（6 月）一般質問

(2) 度重なる不祥事に対する改善策と検証について

○ 議員 宮下裕美子 できるだけ前向きな発言が引き出せるよう私としては月形町の将来像をどのようにしていくかというビジョンを、この一般質問で引き出して行きたいと考えて常にやっているのです。漠然とした答弁ですとイメージがそれぞれ分かれていき方向性を見失ってしまいますので、できればかたちが見えるような答弁をお願いしたいと考えながら2問目に進みたいと思います。

度重なる不祥事に対する改善策と検証についてお伺いします。月形町役場において近年、大小様々な不祥事が頻発しています。以前に比べて公表する機運が高まってきたこともあって目に付くようになったのかもしれませんが、それにしても頻発していると感じるのは、私だけではないでしょう。この不祥事の内容は、単純ミスから金銭に関わることまで様々ですが、この1、2年で私が記憶しているものだけですが、豪雪時災害時要援護者への対応でこれは本来対象となるべき乳児や障害者、あるいはケガをしている方々の所ではなく、高齢者のみの対応であった。それに対してすでに規則が決まっているにも拘わらず見落としがあったということです。それから豪雪時の公共施設管理については、かなりの豪雪で対応不能の部分もあったと思いますが、一部損壊も含めた対応の遅れは否めなかったと感じています。それから医療事故の事務処理については、事務処理のミスあるいは報告の遅れでした。つい最近のことでは、前教育長の退職金に対して制度を勘違いしたことによる不適切な説明が3年間続いたこと。これらパッと思い返しただけでも上げられます。不祥事内容は単純ミスから金銭に関わることまで様々でしたが、町民からの信用を損ねたことには変わらないと感じています。先ほど行革でも言いましたが、月形町民にとって行政は月形町に住む限り何らかのかたちで関係を持たなければならず、替えも利かない機関です。そしてこのような不祥事が起きて信用がなくなること。それによるマイナスというのは最終的に町民に跳ね返ってくる。このことは私たち議会も含めて行政に関わるもの全てが肝に銘じて取り組んで行かなければならないことであると考えます。そこで質問ですが、これら不祥事が発生した際、理事者から原因・対策・改善策等が個別に発表されてきましたが、現在それらは適切に運用され改善されているのでしょうか。それらの検証も含めて行われているのか、お伺いしたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 不祥事として色々な事案がありますが、それぞれ内容については、発生の経緯、原因として過失的なものから故意的なものまでそれら経緯により対処方法は異なるものと考えているところであります。従ってそれぞれ改善策などをもって対処していくことは、組織として必然的な流れであると考えております。対処について充分・不十分かは、それぞれ監督者や職場内部での検証は当然ながら行うものであり、その内容結果を反映させることが改善策として良い方向に向かうものと思っておりますので、不十分とならないように努め、それぞれ対処していくものとしております。行政全体として未然防止対策等については、理事者と職員の意思疎通と職員の資質向上が最も重要で、これを怠り綱紀粛正や服務規程を徹底するなどの防止策だけで講じていても、職員一人ひとりしっかりした認識が伴わなければ、防ぎきれものではないと考えております。そこで現在、理事者と職員の意思疎通という部分では、毎週の庁内連絡会議や都度開催される庁議、年始及び年度はじめの訓辞を行っており、さらに意思疎通を高めるため管理職との面談を行ない、町の重要施策や各課で抱えている行政課題等について、意見交換や業務指示を行っているところであります。また職場内においても、コミュニケーションを図るため様々なかたちで行われているものと認識しているところであります。職員の資質向上面では、コンプライアンスに関する研修をはじめ公務員の基礎・基本となる地方自治法や地方公務員法の知識を習得する機会として、町村会の基礎研修や監督者研修等を行っており、今年度は更なる組織力向上を図るため管理職を対象とした組織マネジメント研修を計画しているところであります。また研修だけでは身に付かない知識等については、常日頃から上司先輩職員が業務を通じて指導育成を行っており、このような積み重ねが職員の資質向上につながっており、そして組織力の向上につながり、遵法精神が高まって不祥事の起きない強い組織になっていくと考えています。外部からの防止対策の視点では平成23年6月に法令遵守委員会を設置して3名の委員からの職員のコンプライアンスに対する検証・意見などを受けております。これらの意見を受けて外郭団体等の準公金の取扱い方の見直しや寄付採納事務取扱規定の制定など不祥事を未然に防ぐための改善策を講じてきたところであります。さらに町民には職員が不祥事を起こすことのないよう、また不祥事が起きてしまった場合においては、拡大しないよう監視していただく意味も含めて広域通報制度も整備したところでもあります。これら内外の対策を通じて倫理観、透明性の高い組織を目指していくとともに、不祥事の防止に努めていきたいと考えているところであります。これらの対策が機能しているかの判断は難しいものと認識していますが、当然ながら機能するものとして実施しているところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、町長から答弁をいただきましたが、今の答弁自体はそれぞれ不祥事が起きた際に改善策として挙げられるそのものです。例えばコンプライアンス法令遵守委員会ができ条例もできましたが、それ以降も不祥事は発生している。その中で今までの不祥事後の対策を色々な場面で説明されているのを一通り見てそこに共通することを抜き出すと、役場内の風通しが悪くて情報が共有できていない。職場の雰囲気として気軽に相談・報告できない雰囲気がある。そのことも含めて職員との意思疎通を密にしていこうと言われていました。今回の前教育長退職金問題時に広報紙にもこれと同じようなことが載っていましたが、ずっとそのように言っても現に不祥事が起きてしまう。対策としてはもちろん耳障りがいいことだと思いますが、現実にそういう雰囲気が払拭されていない。実際に改善されていないと感じますが、そこを町長はどのように感じているのでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 私としては、不祥事は起こしていけないことであるし、そのことについては、現在も全力でやっていると感じているところであります。教育長退職金問題については、一番新しい事件として私たちは議会での議事録につきましては、全職員に一度、目を通した上でそれぞれ課の代表と課全員での話し合いのことを、私ともう一度やるというかたちで今回、指示を出しているところであります。12月定例議会における議事録そして3月は特に重要でありました。予算委員会を含めた一般質問・予算委員会の議事録などにつきましては、全職員が目を通して私の答弁が間違っていないかどうかについて確認する状況で、現在進んでいるところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今回の対応について議事録を回しながら町長の対応が間違っていないか確認しているということですが、今までの不祥事の対策として職場の雰囲気をもっと改善して、意思疎通を密にしていこうことがメインテーマであるなら、これが間違っているかどうかということより、これをどのように改善したらいいかということをもっとボトムアップで皆さんとともに協議するなど様々な取り組みもできると思いますが、先ほど町長から対策について庁内連絡会議あるいは訓辞・町議・管理職面談などを行っているということで、色々な会議が設置されていると聞きましたが、自らもっと末端の職員を含めて新しい対策を打っていくアイデアを募集する。他に小さな目がより一層細かく拾えるようなシステムづくりなど、今まで考えていたものでは対応できなくてこのように不祥事が連続しているわけですから、何か新たな取り組みが求められているのではないかと思います。それに対して今いくつか述べられて取り組んでいるということはありませんでしたが、結局、結果が今

のところは伴っていない。より一層そういうことを重視するためにも全く別のスタンスの取り組みが必要であると思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 私が町長就任以来、それまでなかった週一回ほとんど月曜日、朝にやるのですが、庁内連絡会議を立ち上げて課内での検討事項ボトムアップをこの連絡会議にそれぞれ持ち寄ってくださいますということを、再三に渡ってしているところであります。そのことがしっかり機能しているかどうかは別問題として、私はこのことを充実していくことが全職員一丸となっていく一番の手立てであるかたちで、信念を持って現在も続けているところです。そのことについては再度、出席者は課長ですから、もう一度、再認識していただき、このことをもって最初にしっかりやっていきたいと考えているところであります。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 それでは連絡会議を充実させ、ボトムアップ並びに細かな連絡をしながら進めていただきたいと思います。一点、質問させていただきたいのですが、色々な不祥事がある中で事務処理や連絡ミスが各課共通するミス自体の中身は違うけれど本質的部分で同じものが案外あって、もう少し庁舎内の情報共有あるいはミスのデータベース化などが十分に進めば、防げたものがあるのではないかというものもあります。先ほど言われた会議の充実などはソフト面ですが、ハード的なものとしてミスあるいは対策のデータベース化などを、より一層、事例を集めながら様々な検証の勉強会を開く。大手企業ですとヒヤリハット事例の収集などできるだけ未然防止をする。1つの事件のサンプルの要因などを皆さんでたくさん検証して、それが起きないようなシステムがすでに作られています。そのハード的な仕組みを作ることに對して何か考えがあるか、お伺いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 重要な質問であったと思います。それらについては、宮下議員の提案型の質問であると思います。そのことについては、しっかり取り組んでいきたいと思いますが、せっかくそこまで有効な提案であるなら通告書にしっかり記載していただければもっと前向きな答弁ができたと思い、極めて残念に思います。